

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想〈小・音楽〉

特別研修員 音楽 黒谷 英里（小学校教諭）

題材名 『いろいろな音のひびきを味わおう』（第5学年） 全5時間計画

## 題材のねらい

「音の重なり」のよさや面白さを感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現を工夫したりすることを通して、いろいろな音の響きを味わうことができるようにする。

## 題材構想の意図

本題材では、音の重なりと曲想との関わりへの興味を高め、学びの支えとなる音楽を形づくっている要素に気付かせていくために、つかむ過程で音の重なり方の違いによって曲想が変化することに気付きやすい曲の鑑賞を行います。追求する過程では、工夫する楽しさを味わい、思いや意図を膨らませることができるよう、鑑賞活動で学んだ要素を手掛かりに試しながら楽器の重ね方を工夫し、表現のよさや面白さを共有・共感させます。まとめる過程では発表を行い、表現の高まりを実感させ、さらに題材全体を振り返らせることで学びが深まるように構成しました。

過程

### 主な学習活動

#### 1. 題材の課題を把握する

- 「アイネクライネナハトムジーク」を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。
- 楽器の音色に合わせて体を自由に動かし、感じたことや気付いたことを伝え合う。
- 題材の課題をつかむ。

いろいろな音のひびきを味わい、音の重なりによさや面白さを生かして演奏を工夫しよう。

#### 2. 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る

- 「リボンのおどり」を聴き、音の重なり方の違いによって生み出される曲想のよさや面白さを感じ取る。
- パートの重ね方を工夫して試し、グループの合奏のイメージをつくる。
- パートの重ね方を表に記入し、可視化する。
- パートの重なりを感じ取りながら、グループのイメージに合うように、強弱や音色を工夫して試す。
- 強弱や音色の工夫を付箋紙を用いて表し、可視化する。
- 中間発表を行い、表現の工夫を伝え合う。

<強弱を付箋紙の数で表した例>



<中間発表の様子>

#### 3. 表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る

- パートの重ね方、強弱、音色の工夫を確認し、発表を行う。
- 印象に残った表現の工夫を全員で演奏して確かめる。
- 「音のひびきを味わう」学習全体を振り返り、学んだことや今後に生かしたいことをワークシートに記入する。

### 題材への興味・関心をもたせる

題材の学びへの動機付けになるように、聴こえてくる楽器の音や重なり方に着目させながら曲を鑑賞させ、音の重なり方の違いによって変化する曲想に興味をもたせる。

### 音楽の特徴を捉えさせる

学びの支えとなる音楽を形づくっている要素に着目できるように、諸感覚を使って音楽を捉えさせる。

### 学びの見通しをもたせる

曲から感じ取ったイメージを音楽を形づくっている要素と関連付け、題材で追求していくことの焦点化を図る。

### 表したい表現の思いをもたせ、膨らませることができるようにする①

言葉によるやり取り（表現したい思いや意図）と、それを音で試す活動を行き来することで、グループによる工夫を練り上げ、思いや意図を膨らませることができるようになる。

### 表したい表現の思いをもたせ、膨らませることができるようにする②

強弱を付箋紙の量で示すことで視覚的に情報を整理し、自分たちの学びを蓄積させるとともに、可視化した情報を基に、他者に表現の工夫を伝えたり再現したりしながら、思いや意図を膨らませていくことができるようになる。

### 表現のよさや面白さを共有・共感させる

中間発表の場を設け、各グループの表現の高まりを意図的に紹介し、アドバイスし合うことで表現のよさや面白さを共有・共感させ、自分たちの表現に生かせるようになる。

### 表現の高まりを実感させる

発表者も聴き手もお互いにイメージと工夫点を意識して演奏したり聴いたりすることを通して、表現のよさや面白さを認め合うことができるようになる。さらに、印象に残った表現の工夫を全員で演奏することで、表現の高まりを実感させる。

### 題材の学びを自覚させる

「音の重なり」「強弱」「音色」等の音楽を形づくっている要素とその働きの視点で題材の学びをまとめるとともに、学んだことをどのように生かしたいかを問い掛け、生活や文化と関連付けながら振り返らせる。

追求する (A 表現・3)

まとめる (A 表現・1)

指導例：『いろいろな音のひびきを味わおう』（第5学年 第1時）

1 題材への興味・関心をもつ。

○「アイネクライネナハトムジーク」を聴き、はじめに感じ取ったことや聴き取ったことを自由に伝え合う。

T：どんな音が聴こえましたか。

S：主な旋律の下に低い音が聴こえます。

T：では、主な旋律と低い音の旋律がどのようになっていますか。

S：重なり合っています。

T：はじめにでてくる旋律はどんなふうに重なっていますか。

S：高い音も低い音もみんな同じ旋律を演奏しています。

T：では、次のフレーズはどうですか。

S：主な旋律の下に、低い音がボンボンボン…と重なっています。

T：二つのフレーズの感じは似ていますか、違いますか。

S：違うように感じます。

T：重なり方が違うと、曲の感じも変わってきそうですね。

では、今日のめあては…

めあて 旋律の重なり方を聴き取って、曲のよさや面白さをさがそう。



<音楽に出会い、気付いたことを伝え合う>

2 中心となる音楽活動を行う。

○バイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバスについて知り、それぞれの音色に合わせて体を動かしながら聴き、パートの役割や特徴を捉える。

○曲の音楽的な特徴を捉えさせ、感じ取った特徴について、「旋律の重なり方」と関連付ける。

S：はじめの旋律は力強い感じがします。全員が力を合わせているような。

T：どうしてそう感じるのでしょうか。「旋律の重なり方」はどのようになっていますか。

S：みんなで同じ旋律を演奏しています。

T：音の高さが違う四つの楽器が同じ旋律を演奏することで、力強い感じが生まれるのですね。

S：まるでお話をしているように聴こえてくる部分もあります。

T：この部分の重なり方はどうなっていますか。

S：高い音と低い音が交互に主な旋律を演奏しています。

T：まるで呼びかけ合っているみたいで面白いですね。

3 題材の課題をつかむ。

○旋律の重なり方の違いによって曲の感じが変わることを押さえ、さらに次時の教材曲「リボンのおどり」の範奏を聴く。

いろいろな音のひびきを味わい、音の重なりによさや面白さを生かして演奏を工夫しよう。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○旋律の重なり方が変化することで曲の感じも変わることを確かめ、本時の振り返りを行う。

(児童の振り返り)

☆四つの弦楽器が一斉に同じ旋律を演奏すると、高い音と低い音が重なって、力強い感じがした。主な旋律を支える伴奏のリズムは細かくて、弾む感じをつくり出していた。自分たちも「リボンのおどり」の合奏をするときに、音の重なり方を工夫してみたいな。

指導のポイント

題材に関する興味・関心を喚起させる

○既習事項である旋律の重なり方とその響きを想起させ、教師とやり取りをする中で題材を貫く要素である「旋律(音)の重なり方」が生み出す曲想の変化に気付けるようにする。

音や音楽の特徴を捉えさせる

○聴こえてくる音に合わせて、弦楽器の弓を動かす動作をしながら聴かせ、なぜそのような動きになったのかを問い掛けることで、曲のよさや面白さにつながる音楽の特徴を捉えさせる。

○感受したことを児童から引き出し、なぜそう感じるのかを問い掛けながら「音の重なり」に着目させることで、そのように感じる理由を曲の中から聴き取らせるようにする。

学びの見通しをもたせる

○感じ取ったよさや面白さは「音の重なり」の変化と関わりがあることを全体で共有し、さらに次時の教材曲を聴くことで自分たちも「音の重なり」を工夫して演奏したいという思いをもたせる。

題材に対する思いや願いをもたせる

○「音の重なり」に着目し、題材を通してどんなことを学んでいきたいかを問い掛け、今後の学習への期待感を高める。

指導のポイント

指導例：『いろいろな音のひびきを味わおう』（第5学年 第4時）

1 学習への興味・関心をもつ。

○重なりや強弱の変化を付けながら、「リボンのおどり」の打楽器パートを繰り返してリズム打ちをする。

2 めあてをつかみ、見通しをもつ。

T：「リボンのおどり」をパートごとに重ねていったら、終わりに向かって強弱はどうなりましたか？

S：だんだん強くなります。

S：（音が重なる）楽器の数が増えたから…。

T：では、終わりに向かってどんなイメージですか？

S：にぎやかな感じがします。

T：もっともつにぎやかなイメージに近付けるには、どんな工夫をしたらいいですか。

S：強弱を工夫したらいいと思います。

S：手拍子でも打ち方を変えると、音の特徴が変わるね。

T：イメージに近付けるためのヒントが見つかったようですね。

では、今日のめあては…

めあて グループのイメージに合った「リボンのおどり」になるように、強弱や音色を工夫して試そう。

3 中心となる音楽活動を行う。

○グループのイメージに合った表現になるよう、強弱や音色の工夫を試行しながら探る。

S：「雨のち晴れ」のイメージだから、最後は強くしたいね。

S：じゃあ、はじめは雨降りだから、弱くしようか。

S：小太鼓の音を弱くしたら、雨が弱くなっていく感じがするかな。



<グループで試行している場面>

T：真ん中はどんな感じにしたいですか？

S：雨が上がった感じを出したいから、急に弱くしてみたいな。

（試して演奏した後）

T：急に弱くなると雨が上がった感じがして面白いですね。

○付箋紙を用いて強弱や音の重なりを可視化する。

○中間発表を行い、表現の工夫を伝え合う。

（中間発表の後）

S：終わりに向かって強弱が変化して、天気が変わる様子が分かったよ。

S：鉄琴のパートは、ペダルを踏んで音色を変えたところがよかった。

T：音の強弱や音色を工夫すると、イメージが伝わる演奏になりますね。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○グループのイメージに近付けるために、強弱や音色を工夫することができたかを振り返り、次時に向けて試したいことなども含めてワークシートに記入する。

（児童の振り返り）

☆小太鼓の音の大きさを変えたら、前よりも自分たちのイメージに合ったように感じた。次は木琴や鉄琴でも音の大きさに変化を付けてみたい。

めあてを引き出すために前時の学びを想起させる

○前時の学習で音の重なりを工夫したことももっと工夫したいと思ったことを想起させ、教師とやり取りをする中で音楽表現を工夫するための要素である「強弱」「音色」に気付かせる。

思いや意図を伝え合い試しながら工夫させる

○言葉によるやり取り（表現したい思いや意図）と、それを音で試す活動を行き来することで、グループによる工夫を練り上げ、思いや意図を膨らませられるようにする。

学びの過程を可視化し表現を工夫させる

○自分たちの学びを蓄積するとともに、他者に表現の工夫を伝えたり再現したりできるように、強弱を付箋紙の量で示し、視覚的に情報を整理させる。

表現のよさや面白さを共有・共感させる

○中間発表の場を設け、各グループの表現の高まりを意図的に紹介し、アドバイスし合うことで表現のよさや面白さを実感させ、さらに自分たちの表現の工夫に生かせるようにする。

学びの視点を明確にし振り返らせる

○本時で高まった表現を教師が価値付けるとともに、強弱や音色を工夫することで、表現したいイメージに近付いたかを問い掛け、学びの深まりを自覚させる。



指導例：『いろいろな音のひびきを味わおう』（第5学年 第5時）

1 学習への興味・関心をもつ。

○前時までに工夫した「リボンのおどり」の各グループの表現の中から、面白さやよさを感じたものを全体で演奏する。

2 めあてをつかみ、見通しをもつ。

T：「リボンのおどり」の各グループの表現の中で、心に残ったものを思い出してみましょう。どんなのありましたか。  
 S：終わりに向かって楽器の数を増やしていくと、強弱が強くなって、だんだん明るくなる感じがします。  
 S：『夜明け前から太陽が出て明るくなる』イメージが伝わりました。  
 S：『天使と悪魔のリボンのおどり』は、繰り返しの5回目に急に静かになったところが面白かった。  
 S：『雨のち晴れのリボンのおどり』は、（強弱と音色以外に）速さも変えていたよね。  
 T：自分のグループのイメージがより伝わるように、演奏を高めていきたいですし、他のグループの工夫についてももっと知りたいですね。  
 では、今日のめあては…

めあて グループの「リボンのおどり」を演奏し合って、そのよさや面白さを見付けよう。

3 中心となる音楽活動を行う。

○グループで強弱や音色の工夫を確かめ、演奏を発表し合う。

S：グループのイメージは『天使と悪魔のリボンのおどり』です。  
 聴いてもらいたい『おすすめポイント』は、（繰り返しの）5回目から強弱と音色を突然変えたところです。

（演奏が終わった後で）

T：このグループのよかったところや面白かったところを教えてください。

S：真ん中のあたりで急に弱くなったところ  
 です。

T：急に弱くなるとどんな感じがしましたか。 <よさや面白さを伝え合う>

S：はっとして、なんだか悪魔が通っていったような感じでした。

T：グループのイメージが伝わったようですね。

○印象に残った表現を全体で一緒に演奏する。

S：強弱の急な変化は、意外な感じがして楽しいね。  
 S：小太鼓は、打つ場所に変化を付けると、強弱も音色も変えられるね。  
 T：音の強弱や音色を工夫するために、楽器の演奏の仕方も工夫すると、よりイメージが伝わる演奏になりますね。

4 学習のまとめをし、学びを振り返る。

○「音のひびきを味わう」学習全体を振り返り、学んだことや今後に生かしたいことをワークシートに記入する。

（児童の振り返り）

☆自分たちにはない工夫が他のグループにはあって、それを聴いてみたりやってみたりすると、面白さが実感できた。同じ曲なのに重なり方や強弱・音色を変えるだけでいろいろな表情になることが改めて分かった。他の曲を演奏するときも工夫していきたい。



<よさや面白さを伝え合う>

指導のポイント

題材全体を振り返る  
めあてを設定させる

○前時までの学習で「音の重なり」「強弱」「音色」を工夫したことやもっと試してみたいと思ったことを想起させ、教師とやり取りをする中で題材全体を通して学んだことに目を向けさせる。

知識や技能を習得する  
必要性を実感させる

○強弱に変化を付けるために、太鼓の面のどこを打つとよいか考えさせたり、木琴や鉄琴のばちを複数用意しておき、強弱や音色の違いを比べさせたりしながら、表したいイメージにより近付けられるように、楽器の奏法についての知識や技能を習得させる。

音楽表現の高まりを実感させる

○発表者はイメージと工夫点、ぜひ聴いてほしいポイントを説明してから演奏するように指示し、発表者も聴き手もお互いにイメージと工夫点を意識して演奏したり聴いたりできるようにする。  
 ○よさや面白さを伝え合ったり、一緒に演奏したりすることを通して、表現の工夫を共有・共感できるようにする。

学びの視点を明確にして  
題材全体を振り返らせる

○題材を通して学んだことを「音の重なり」「強弱」「音色」等の音楽を形づくっている要素とその働きの視点でまとめ、学んだことをどのように生かしたいかを含めて、題材全体を振り返る。

# 音楽科学習指導案

平成30年6月 第5学年 指導者 黒谷 英里

## I 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう

## II 学習指導要領上の位置付け

### A 表現

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調およびイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能

(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

### B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素

ア 音楽を特徴付けている要素 … 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、拍

イ 音楽の仕組み … 反復、音楽の縦と横との関係

## III 目標

「音の重なり」のよさや面白さを感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現を工夫したりすることを通して、いろいろな音の響きを味わうことができるようにする。

## IV 指導計画 ※別紙参照

## V 本時の展開（1／5）

1 ねらい 旋律の重なり方から生まれる曲想の特徴を捉えることを通して、「音の重なり」が生み出す響きのよさや面白さに関心をもつことができるようにする。

### 2 展開

| 学習活動（分）   | ○：留意点 | 点線囲：評価 | ☆：振り返りの子供の意識 |
|---|-------|--------|--------------|
| <p><b>1 題材への興味・関心をもつ。（15分）</b></p> <p>○「アイネクライネナハトムジーク」を聴き、はじめに感じ取ったことや聴き取ったことを自由に発言させる。</p> <p>○各楽器の旋律に着目して聴くことを通して、複数の旋律が重なり合って演奏されていることに気付かせる。</p> <p>○旋律の重なり方が変化すると曲の雰囲気はどうなるかを問い掛け、表出した言葉を基にして、本時のめあてを引き出すようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 旋律の重なり方を聴き取って、曲のよさやおもしろさをさがそう。</p> </div>   |       |        |              |
| <p><b>2 中心となる音楽活動を行う。（20分）</b></p> <p>○バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスについて知り、それぞれの音色に合わせて体を動かしながらパートの役割や特徴を捉えさせる。</p> <p>○各楽器の役割や特徴について、感じたイメージや気付いたことを話し合い、パートの重なりを図で示すなどしながら音の重なり方の違いを可視化させる。</p> <p>○旋律の重なり方を①全員同じ旋律、②主な旋律と伴奏、③呼びかけ合いのパターンに分け、それぞれの特徴やイメージをまとめさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・旋律の重なり方の違いから生まれる曲想の変化や、「音の重なり」が生み出す響きのよさや面白さに興味・関心をもっている。（関心・意欲・態度）＜観察・発言＞</p> <p>・旋律の重なり方の違いを捉え、重なり方の違いによって曲想が変化することを感じ取りながら、曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。（鑑賞）＜観察・発言＞</p> </div> |       |        |              |
| <p><b>3 題材の課題をつかむ。（5分）</b></p> <p>○旋律の重なり方によって曲の感じが変わることを押さえ、さらに次時の教材曲「リボンのおどり」の範奏を聴き、パートの重なり合いの違いから生まれる響きの変化を捉えることで、自分たちもいろいろな響きを重ねて演奏してみたいという思いをもたせる。</p>   |       |        |              |
| <p><b>4 学習のまとめをし、学びを振り返る。（5分）</b></p> <p>○旋律の重なり方が変化することで、曲の感じも変わることに気付かせ、曲のよさや面白さが感じ取れたことを確認する。</p> <p>○いろいろな音の重なり方があり、それぞれが醸し出す雰囲気やイメージも異なっていたことを振り返ることで、「音の重なり」に着目して学習を進めることに期待感をもたせる。</p> <p>☆①の部分は、四つのパートが一斉に同じ旋律を演奏していて、高い音と低い音が重なって、力強い感じがした。②の部分については、主な旋律を支える伴奏のリズムが細かくて弾むような感じがした。自分たちも歌ったり楽器を演奏したりするときには、音の重なり方に注目してみよう。</p>   |       |        |              |

## V 本時の展開（4／5）

1 ねらい パートの重なりを感じ取りながら、強弱や音色に変化を付けて演奏を試す活動を通して、グループのイメージに合った表現を工夫できるようにする。

### 2 展開

| 学習活動（分）                  | ○：留意点  | 点線囲：評価 | ☆：振り返りの子供の意識 |
|--------------------------|--|--------|--------------|
| 1 学習への興味・関心をもつ。（5分）      | ○「リボンのおどり」のリズムパターンを提示し、重なりや強弱に変化を付けながら繰り返しリズム打ちをする活動を通して、本時の学習への意欲を喚起させる。  |        |              |
| 2 めあてをつかみ、見通しをもつ。（5分）    | ○伴奏から主旋律、副次的旋律、低音部、リズムの順にパートを重ねて演奏し、意図的に強弱に変化を付けて繰り返す活動を通して、グループのイメージにもっと近付けるためにどんな工夫をしたらよいかを想起させる。  |        |              |
|                          | めあて 自分たちのイメージに合った「リボンのおどり」になるように、強弱や音色を工夫して試そう。  |        |              |
| 3 中心となる音楽活動を行う。（25分）     | ○グループに分かれ、イメージに合った演奏に近付けるために、強弱や音色を意識してどのように表現を工夫したらよいかアイディアを出し合い、出されたアイディアを基に演奏して試してみるように促すことで、曲の感じがどのように変化したかを実感させる。<br>○各グループの表現の工夫を全体で共有・共感できるよう、ワークシートに付箋紙を用いて強弱や音の重なり方を可視化する。<br>○各グループの表現の中で特に聴いてほしい工夫を「おすすめポイント」としてまとめさせ、グループのイメージと音楽を形づくっている要素との関わりから説明できるように助言する。<br>○各グループの表現の高まりを意図的に紹介し、中間発表の場を設定することでそれぞれのよさを実感させ、アドバイスし合うことでその後の学びを深めさせる。 |        |              |
|                          | 強弱や音色に着目しながら、どのようにパートを重ね合わせるかについて自分の思いや意図をもち、イメージに合った表現を工夫している。<br>(創意工夫) <観察・発言・ワークシート>   |        |              |
| 4 学習のまとめをし、学びを振り返る。（10分） | ○中間発表で高まった表現のよさや面白さを教師が価値付け、強弱や音色を工夫することで曲の感じが変化したことを確認する。<br>○工夫した自他の表現を共有・共感させ、本時の学びでできたことや分かったことをワークシートに書いて振り返らせる。同時に、次時に向けてやってみたいこと、試してみたいことなども書くように促し、次時への期待感をもたせる。<br>☆終わりに向かってだんだん楽器が増えていくようにパートを重ねていくと、盛り上がる感じがするので、小太鼓を最初は小さく、最後に向かってだんだん強くなるように演奏したらどうかと思った。試してみたら、自分たちのイメージに近付いた感じがした。次は打楽器を変えてみたらどうなるだろう。もっと試してみたい。                          |        |              |

## V 本時の展開 (5/5)

1 ねらい グループごとに演奏を発表し、お互いに聴き合うことを通して、いろいろな音の響きのよさや面白さを味わうことができるようにする。

### 2 展開

| 学習活動 (分)                 | ○ : 留意点  | 点線囲 : 評価 | ☆ : 振り返りの子供の意識 |
|--------------------------|--|----------|----------------|
| 1 学習への興味・関心をもつ。(7分)      | ○前時までには工夫したグループ表現の中から、特によさや面白さを感じたものを問い掛け、全体で演奏することで今までの学習を想起させる。  |          |                |
| 2 めあてをつかみ、見通しをもつ。(3分)    | ○前時に工夫したグループ表現について、表現したい思いや意図と関連付けて想起させ、さらに自他の表現のよさや面白さに目を向けさせることで演奏し合う活動への期待感をもたせる。   |          |                |
|                          | めあて グループの「リボンのおどり」を演奏し合って、そのよさやおもしろさを見付けよう。  |          |                |
| 3 中心となる音楽活動を行う。(25分)     | ○グループのイメージを伝えてから発表させ、聴き手にイメージと工夫点を意識しながら聴くように伝える。<br>○表現のよさや面白さを、感じ取ったことと「音の重なり」「強弱」「音色」等の音楽を形づくっている要素とを関連付けて伝え合うよう促す。<br>○各グループの表現の中で特によさや面白さを感じたものについては、意図的に一緒に演奏してみることで、そのよさや面白さを共有・共感できるようにする。 |          |                |
|                          | 演奏するパートの役割や楽器の特徴を生かし、表現を工夫しながら旋律楽器や打楽器を演奏している。(技能) <演奏聴取>  |          |                |
| 4 学習のまとめをし、学びを振り返る。(10分) | ○各グループの表現のよさや面白さを振り返り、音の重なり方や、強弱、音色に着目して表現を工夫することで、自分たちのイメージに合った演奏ができることを自覚させる。<br>○題材を通して学んだことを「音の重なり」「強弱」「音色」等の音楽を形づくっている要素とその働きの視点で振り返らせる。  |          |                |
|                          | ☆他のグループの発表を聴いて、自分たちでは考えられなかった組み合わせがあって、面白かった。重なり方が同じでも、強弱に変化が付いたことで、また違ったイメージの「リボンのおどり」になっていた。打楽器の打ち方を工夫すると、合奏全体のイメージが変化することも分かった。   |          |                |
|                          | ☆面白いと思った重ね方をみんなで演奏してみたら、どうして面白く感じたかが実感できた。   |          |                |



指導計画 音楽科 第5学年 題材名「いろいろな音のひびきを味わおう」(全5時間計画)

|      |  |   |   |  |
|------|--|---|---|--|
| 目標   | 「音の重なり」のよさや面白さを感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いや意図をもって表現を工夫したりすることを通して、いろいろな音の響きを味わうことができるようにする。   |   |   |  |
| 評価規準 | ア 音楽への関心・意欲・態度   | イ 音楽表現の創意工夫   | ウ 音楽表現の技能   | エ 鑑賞の能力  |
|      | (1) 旋律の重なり方の違いから生まれる曲想の変化や、「音の重なり」が生み出す響きのよさや面白さに興味・関心をもっている。<br>(2) いろいろな音が重なり合う響きやリズムの面白さに興味・関心をもち、歌ったり演奏したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。 | (1) 各パートの旋律の特徴を感じ取り、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。<br>(2) 強弱や音色に着目しながら、どのようにパートを重ね合わせるかについて自分の思いや意図を持ち、イメージに合った表現を工夫している。          | (1) 演奏するパートの役割や楽器の特徴を生かし、表現を工夫しながら旋律楽器や打楽器を演奏している。  | (1) 旋律の重なり方の違いを捉え、重なり方の違いによって曲想が変化することを感じ取りながら、曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 |
| 過程   | 時間   | ○ねらい<br>めあて   | ☆振り返り(意識)   | ◇評価規準<br>〈評価方法〉  |
| つかむ  | 1  | ○旋律の重なり方から生まれる曲想の特徴を捉えることを通して「音の重なり」が生み出す響きのよさや面白さに関心をもつことができるようにする。<br><br>旋律の重なり方を聴き取って、曲のよさやおもしろさをさがそう。                        | ☆①の部分は四つのパートが一斉に同じ旋律を演奏していて、高い音と低い音が重なって力強い感じがした。②の部分は主な旋律を支える伴奏のリズムが細かくて弾むような感じがした。自分たちも歌ったり楽器を演奏したりするときに、音の重なり方に注目してみよう。  | ◇ア(1)エ(1)<br>〈観察・発言〉   |
| 追求する | 2  | ○二つの「リボンのおどり」の範奏を聴き比べ、繰り返すたびに変わる楽器の音色や音の重なりを聴き取ることを通して、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取ることができるようにする。<br><br>音の重なりに着目して、二つの「リボンのおどり」の特徴をつかもう。 | ☆一つめは繰り返すたびに響きが変化していた。二つめは繰り返すたびに楽器がだんだん増えていく重なり方をしていた。同じ曲なのに、楽器の音やパートの重なり方の違いで曲の雰囲気が変わるので不思議に思った。<br>☆主旋律ではない鉄琴と木琴だけで演奏するのも、はっとする面白さがあった。リズムを入れたり抜いたりするのも曲の感じが全く変わって面白い。これをグループの合奏に使ってみたい。 | ◇ア(1)(2)<br>〈観察・ワークシート〉  |
|      | 3  | ○グループに分かれ、パートの重なりを演奏して試すことを通して、演奏のイメージをもたせ、どのような合奏にしたいかについて思いや意図をもてるようにする。<br><br>自分たちのイメージに合った「リボンのおどり」になるように重ね合わせ方を工夫して試そう。     | ☆演奏して試しながらパートの重なりを考えてみたら、木琴や鉄琴の打ち方や強弱なども工夫しながら演奏すると、もっと自分たちのイメージに近づくことに気付いた。  | ◇イ(1)<br>〈観察・発言・ワークシート〉  |
| まとめ  | 4  | ○パートの重なりを感じ取りながら、強弱や音色に変化を付けて演奏を試す活動を通して、グループのイメージに合った表現を工夫できるようにする。<br><br>自分たちのイメージに合った「リボンのおどり」になるように、強弱や音色を工夫して試そう。           | ☆終わりに向かってだんだん楽器が増えていくようにパートを重ねていくと、盛り上がる感じがするので、小太鼓を最初は小さく、最後に向かってだんだん強くなるように演奏したらどうかと思った。試してみたら、自分たちのイメージに近付いた感じがした。次は打楽器を変えてみたらどうなるだろう。もっと試してみたい。   | ◇イ(2)<br>〈観察・発言・ワークシート〉  |
|      | 5  | ○グループごとに演奏を発表し、お互いに聴き合うことを通して、いろいろな音の響きのよさや面白さを味わうことができるようにする。<br><br>グループの「リボンのおどり」を演奏し合って、そのよさやおもしろさを見付けよう。                     | ☆他のグループの発表を聴いて、自分たちでは考えられなかった組み合わせがあって、面白かった。重なり方が同じでも、強弱に変化が付いたことで、また違ったイメージの「リボンのおどり」になっていた。打楽器の打ち方を工夫すると、合奏全体のイメージが変化することも分かった。<br>☆面白いと思った重ね方をみんなで演奏してみたら、どうして面白く感じたかが実感できた。            | ◇ウ(1)<br>〈演奏聴取〉  |